

令和五年度（二〇二三年度）第七十三回北海道浜頓別高等学校入学式式辞

ここ浜頓別の地でも日ごとに春風の暖かさと、新たな生命の始まりを感じる今日の佳き日、大きな可能性を秘めた若者たちを迎えることとなりました。

本日、第七十三回北海道浜頓別高等学校入学式を挙行するにあたり、本校の教育活動に多大なるご支援をいただいております浜頓別町長 南 尚敏様、保護者と教職員の会会長 村田克明様をはじめとして、多くのご来賓と保護者の皆様のご臨席を賜りましたことは、入学生のみならず、教職員一同の喜びとするところであります。衷心より厚くお礼申し上げます。

保護者の皆様、お子様のご入学おめでとうございませす。昨年の四月から成人年齢が十八歳に引き下げられ、高校生は名実ともに子供から大人へと移行する大切な時期となりました。保護者の皆様と「共に育む」という視点で連携して参りたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

新入生の皆さん、入学おめでとうございませす。皆さんは浜頓別高校で学ぶ志を持つ生徒として、今入学を許可され、本校の一員となりました。

本校は「厚情 自律 愛郷」を校訓とし、創立七十年を超える地域の中心校です。卒業生は六千五百名を数え、全国全国の各方面で活躍しています。佳き伝統を受け継ぎ、さらに新しい歴史の一ページを今日から刻み込んでください。

さて、令和三年、道立学校には、学校の果たすべき役割と育成すべき生徒の姿を明確に示すために、スクール・ミッション及びスクール・ポリシーを制定し、地域に広く知らせることが義務づけられました。本校には既に、昭和五十二年三月に制定された「生徒指標」があり、育成すべき生徒の姿が示されていましたが、制定から四十年以上が経過したことを踏まえ、基本となる理念を継承しつつ、時代の要請にあつた形で「生徒三是」を設定しました。「三是」とは三つの「是」、つまり、一般的によりと認められていることを表し、時代に即した目指すべき生徒の姿です。

入学に当たり、三つの「是」についてお話しします。

一つには、「寛容で、思慮深い人」です。

寛容とは、自分が正しいと考えていることと違っていても、自分の考えを強要せず、人の言動をよく受け容れること。また、他人の罪や過ちを厳しく問いただすことではない、という意味です。

しかし、寛容であることは、実はそれほど簡単なことではありません。ある人にとって良いことでも、他の人には良くないという価値観のぶつかり合いは、大なり小なり生きていく上で避けることはできません。寛容であるためには、同じ人間同士でも世界のとらえ方に違いがあることを知り、自分の正しきの限界や自分とは違う正しきがあるかもしれない、という可能性に想像力を働かせることが必要です。そのためには「思慮深さ」が求められるのであり、これは生徒指標から続く一貫した言葉です。高校での学びで、物事の本質を見極める力を身に付けてください。

二つには、「志を立て、気概を持って行動する人」です。

幕末の思想家であり教育者である吉田松陰は、長州萩の松下村塾で若者たちに「志を立ててもって万事の源となす」、目標を立てることからすべては始まると説きました。高校は義務教育ではない、自分の意思で学ぶという点で、中学とは大きく異なります。これまではこれまでとして、これからのことをしっかりと考えてほしいと思います。ただし、目標を達成するまでには多くの試練もあります。収束を見せつつある新型コロナウイルス感染症は、これまでの私たちの価値観や生活様式を大きく変える、まさに人類全体に対する試練と言ってもよいものでした。しかし、私たちは、「やってやらあ！負けないぞ！」という気持ちで立ち向かってきました。これが気概を持つ、ということです。自分自身に枠をはめず、思い切った様々なことに挑戦してください。

三つには、「郷土を愛し、未来を創る人」です。

一般的に十五歳以上六十五歳未満の人口を生産年齢人口といい、「社会を担う中核」とされています。これまで皆さんを育ててくれた保護者の皆様をはじめとする地域の方々に感謝の気持ちを持つことに加え、今後は地域を維持・発展させていく役割を期待されることになります。少子高齢化、過疎化といった課題を克服し、故郷を次の世代にどう引き継いでいくか。本校には地域を理解するための学習が多く用意されていますので、先に話した「思慮深さ」と「気概」をもって学んでください。

本校には皆さんを愛情と使命感をもって指導し、応援する教職員集団がいます。家庭や地域と一体となって皆さんを支え、皆さんが心豊かにたくましく成長することを楽しみにしています。

結びに、入学生が「生徒三是」を体現し、校訓のごとく、仲間とともに自律し、地元愛に溢れる人となるよう期待し、式辞といたします。

令和五年四月十日